

# 玄洋社関係史料の紹介

石瀧 豊美

第 57 回

## 同時代から見た頭山満 ①

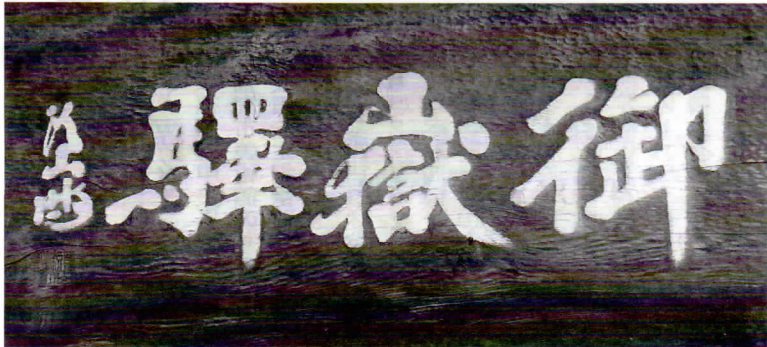
### JR 駅名の額

今回から新シリーズに入ります。頭山満関係の資料をさまざまに紹介することにします。読者の皆様情報をお公にすることで、さらなる資料・史料の発見につながればと思っています。

「書は人なり」と言います。小学校二年生ぐらいの時でしょうか、放課後に教室で書道教室が開かれていました。毎回墨をすりま

す。当然の話ですが、私にはこれがまどろっこしいのです。とうとう逃げ出すようにして、書道とは縁遠くなりしました。私の字は行書と強弁できそうですが、実は単に下手なだけです。その理由が最近わかりました。急いで書くためです。なぜ画数を減らしたり、四角を丸めたり、わざわざ読めないような字を書くのか。自分でも不思議なくらいです。ワープロが発明さ

らあります。多少の地域差はありながら、同じ地域では武士も庶民も共通した書き方をしています。古文書は読めても、扁額や掛け軸となるとどうして読めない字があります。掛け軸には儒教の知識などが入ってくるので、前後関係がわからないと読み取れないことが起きます。今になって書道が続ければよかったと反省しきりです。「書は人なり」とは「書」が残っているからこそ言えることで、ワープロで文章



「書は人なり」とは「書」が残っているからこそ言えることで、ワープロで文章をよくない字」の中には頭山満の書ではないもの、言わば偽作が混じっているのではないか、と思うようになりました。この点はさらに詰めていきます。ただ、古書店や骨董店の間では頭山の書には偽作がない。なぜかと言うと、本物が多すぎて、偽作を作る必要がないからだ、と言われていたそうです。山岡鉄舟（一八三六〜一八八）は生涯に百万枚以上書いたと言われるものですが（ウィキペディア）インタ

を書いているればそれも死語に違いありません。頭山満（一八五五〜一九四四）の書は比較的あちこちに残されています。私は当初あまり気にとめていませんでした。ところが段々わかってきたのですが、力のこもった字と、どちらかと言うと力を抜いた字と、二つの作風があることが見えてきました。要するに「いい字」と「あまりよくない字」と「あまりよくない字」です。そして「あまりよくない字」の中には頭山満の書ではないもの、言わば偽作が混じっているのではないか、と思うようになりました。この点はさらに詰めていきます。ただ、古書店や骨董店の間では頭山の書には偽作がない。なぜかと言うと、本物が多すぎて、偽作を作る必要がないからだ、と言われていたそうです。山岡鉄舟（一八三六〜一八八）は生涯に百万枚以上書いたと言われるものですが（ウィキペディア）インタ

